

# 龍源寺報

正月号

臨濟宗・妙心寺派	
住職 松原信樹	
佛母寺住職 松原覺樹	
正福寺住職 松原行樹	
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## 新年におもっ

毎日の生活の中で起こることは、人間の思量をはるかに超えている。全く問題ないと思われる安全な環境も、一瞬のうちに崩れ去ることがある。いかに努力し、精進しても、不運と挫折に遭遇する時がある。無常ということを入が意識するのは、この瞬間である。また、人間の命の有限性を思い知って、多くを学び取る時が、この瞬間である。そして、その時に、自分が今までに、苦勞して蓄積していた知識というものが、全く役に立たないと思う時がある。そのような時に、先代住職・松原哲明師は、難しい思想や論争を遠ざけて、苦惱の人生の姿を、文人達が遺した、その時々々の詩歌の中にかし込んで法話や文章を描き上げ、人々に「気づき」を投げかけた。それは、西條八十・島崎藤村・高村光太郎など。お檀家さんの中にも、ご存じの方も多いと思う。それは、実際に、多くの人々の共感を呼んだ。

私は、どんな人にも、三つの幸福のようなものが、平等に授けられていると思う。

一、自分で生きているというよりは、生かされ

ている。(大いなるものに、生かされているという気づき)

一、努力と精進のさなかに、美しいものにふれ、多くの気づきを得る。(本来の自己への気づき)

一、真に心を通わせ、理解しあえる他者との出会。(縁への気づき)

これら、三つは、すべて気づきである。禅の考え方というのは、外から何かを持ってきて、自分のものにするのではなく、自分の中にあるものに気づいていくことである。気づきというのは、人それぞれで、ウォーキング・通勤中・食事中など様々ところにそれはある。

私自身、多くの方々に、助けていただきながら、生きている。本当に、毎日が感謝の気持ちでいっぱいである。歴史を辿れば、戦争や大震災など過酷な時代でも、人々は生きてきた。時代の難しい変化に対応しながらも、乗り越えて、どんな苦しいことがあっても、諦めず、希望をもつて、正しい工夫をすれば、きっと乗り越えられる。

感謝と希望と工夫をもった一年にしたいと思います。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

寄 付

金十万円也

中村純江殿

金十万円也

樋口早苗殿

ありがとうございました

\*経蔵建立のこと

※将来は、本堂の裏地を整理して、大般若経を納める経蔵を建立する計画をしております。

### 新刊のご案内

監修 松原信樹 有田秀穂

『聴いて唱えるしあわせお経の本』

読経CD付き

辰巳出版 一四〇〇円

### 大般若会(お正月の祈祷法要)

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、一月九日(土曜日・午前十一時より)

一、読経

一、法話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

### 龍源寺への交通の便(地下鉄)

- 都営三田線(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

### 龍源寺への交通の便(都バス)

- 田 87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車
- 都 06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車
- 品 97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反 96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ(循環)  
魚ラン坂下・古川橋下車
- 東 98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

## 龍源寺の歴史について(四)

松原 泰道

龍源寺は、もと龍翔院と称したことはたびたび記しましたが、その開山さまについて、寺の記録は次のように伝えます。

肥前の鍋島舎人の第二子、深江平兵衛夫婦は深く禅に帰依して、多くの高僧の教えを恆に聞いていました。夫婦の間に子がなかったので国の観音さまに祈願をこめて、もし男子が生れたら禅僧といたしますと誓いをたてて毎日、観音経をよみつづけました。そして授かったのが開山さまで、僧名を禅格(ぜんかく)、号を越溪(えつきい)と申されます。

十二才の時、父につれられ江戸駒込の勝林寺の了堂和尚に会ったのが第二の仏縁です。

十五才の春には、父の命で下僕を連れて伊勢参宮をしますが、そ

の帰りに松坂の近くで自分の手で髪をおろしました。供の二人もまた頭をまるめ、路を転じて共に近江の永源寺の如雪禅師の弟子になりました。十七才、再び江戸の勝林寺に帰り、更に曹溪寺に止り、後に京都へ上つて儒教を二ヶ年の間学んでおられます。再び江戸へ出て高輪東禅寺の虎伯(こはく)禅師に参禅しました。

その後も各地の高僧を訪ねては参禅をつづけましたが、最後に江戸渋谷の吸江寺開山、石潭(せきたん)禅師の門に入り、その道奥を究めました。時に二十三才でありました。

そして、前にも記しましたように、米沢の城主上杉定勝の女、松嶺隱尼の開基した龍翔院の開山となられるのです。

開山禅師は、三十二才で遷化(せんげい)死去のこと)されました。延宝四年(一六七六年)十一月二十日でありました。その法は

伽山(かさん)和尚に伝えられております。

この伽山和尚もまた名僧で、奥平出羽守貞久の系譜に生れ、奥平昌能、章昌両公の帰依が深かったようです。寺でも同和尚を中興開山としてたたえております。

和尚はまた松巖寺の開山に招かれました。このお寺は、後に奥平公の封地となった今日の大分県、昔の豊前中津に改建されました

和尚は龍翔・松巖の両寺、つまり江戸と豊前の二ヶ寺に禅風を高くかかげ、奥平候をはじめ多くの人々に慕われましたが、享保元年(一七一六年)十月八日に中津松巖寺でおなくなりになりました。

昨年は和尚の二百五十年忌でありましたので、松巖寺では盛大に法要がつとめられました。龍源寺でも昨年十二月一日に、うちわでおつとめ致しました。正式には、目下計劃中の本堂改建ができました時に奉修する予定であります。

柳 緑

花 紅

明けましておめでとうござ  
います。旧年中は、大変お  
世話になりました。私自身  
京都妙心寺に布教師の修習  
生として、二年間で合計五

週間の修習を終え、本年、五月に二週  
間の講習会に参加する予定です。五月  
に法要をお考えのお檀家さまは、早め  
にご連絡をお願い致します。▼四月十日  
(日) 午後より、龍源寺にて、花まつり  
法要を開催致します。花まつりは、お  
釈迦さまの誕生を祝う行事です。稚児  
行列に参加希望の方は、ご連絡をお願  
い致します。今回、龍源寺で、はじめ  
て行う花まつりの行事は、芝仏教会の  
開催で、芝学園吹奏楽団演奏、大道芸、  
法要、稚児行列などを行います。十才  
くらいまでの男の子と女の子が、宗派  
に関係なく、龍源寺周辺を練り歩きます。  
どうぞ、お子様とご参加ください▼写  
経会を今春にでも、復活させようとい  
う動きがでています。『大般若経』を写  
経している先生方が、毎月十八日の観  
音さまの日に、輪番で行うというもの。

詳細が決まりましたら、お知らせ致し  
ます。▼辰巳出版『聴いて唱えるしあわ  
せお経の本』を監修し、出版する機会  
に恵まれました。私達僧侶が毎日行う、  
声を出す読経が身体にいいということ。  
確かに、松原泰道和尚は、晩年まで、  
大きな声を出して、書斎の近くにある  
仏壇でお経を読んでおりました。泰道  
和尚を思い出している出版となりました。  
霊前に捧げたいと思います。▼十二月一  
日に開山忌という、龍源寺を開かれた  
住職の毎歳忌を行います。三三九年忌  
になりますので、三三五年忌には、何  
か記念事業をと思っております。ちな  
みに三百年忌には本堂を新築しました。  
▼母は茶道の先生・民生委員と活躍中  
です。最近は、少し膝の痛みなどを抱  
えており、通院する日が多くなりました  
が、気持ちはいつも元気でいてくれ  
ています。実母と共に龍源寺に居り、  
充実した日々を送っています。妻、亜  
矢は、会社の仕事と龍源寺の仕事を両  
立して、がんばっております。みんな  
で同居しておりますが、トラブルはな

く平穏な日々を送っております。第二  
人は、なかなか会う機会はありませんが、  
二児の父となり元気にしています。▼お  
檀家様で、お葬式をだされる場合、僧  
侶がいらないとお葬式ができないゆえに、  
まず、一番はじめに龍源寺にお電話を  
入れていただきたいと思います。葬儀  
社も信頼のある葬儀社を紹介させてい  
ただきます。丁寧な仕事で皆様に喜ば  
れています。渋谷区広尾にある東北寺  
内龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承  
者を気にしなくてもよい永代供養塔で  
す。龍源寺の規則を守っていただけば、  
どなたでもこのお墓を使用できます。  
最近、墓地の改葬が増えています。▼一  
月九日、午前十一時より、大般若会の  
法要を厳修致します。若い和尚さん達が、  
大きな声で読むお経は、無病息災・家  
内安全などをお祈りするものです。ご  
家族でお参りください。水月会という  
母の社中による初釜もございますので、  
一服してください。午前の部の坐禅会  
は休会になります。宜しく願い申し  
上げます。

(信樹)